

前回審査会（平成 28 年 11 月 28 日）における指摘事項

番号	指 摘 事 項	都 市 計 画 決 定 権 者 ・ 事 業 者 の 考 え 方																
1	<p>現状の知多市清掃センター及び東海市清掃センターの廃棄物搬入車両台数について示されたい。</p>	<p>知多市清掃センター及び東海市清掃センターへの廃棄物搬入車両台数の実績（平成 27 年度）は、下表のとおりです。</p> <table border="1" data-bbox="846 379 2085 660"> <thead> <tr> <th></th> <th>ごみ収集車両</th> <th>直接搬入車両等</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知多市清掃センター</td> <td>約 50 台/日 (約 100 台/日)</td> <td>約 230 台/日 (約 630 台/日)</td> <td>約 280 台/日 (約 730 台/日)</td> </tr> <tr> <td>東海市清掃センター</td> <td>約 40 台/日 (約 90 台/日)</td> <td>約 160 台/日 (約 330 台/日)</td> <td>約 200 台/日 (約 420 台/日)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>約 90 台/日 (約 190 台/日)</td> <td>約 390 台/日 (約 960 台/日)</td> <td>約 480 台/日 (約 1,150 台/日)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※表中の上段は車両台数の年平均値、下段は最大値（12月28日の台数） ※直接搬入車両は自家用乗用車や軽トラックなど</p>		ごみ収集車両	直接搬入車両等	計	知多市清掃センター	約 50 台/日 (約 100 台/日)	約 230 台/日 (約 630 台/日)	約 280 台/日 (約 730 台/日)	東海市清掃センター	約 40 台/日 (約 90 台/日)	約 160 台/日 (約 330 台/日)	約 200 台/日 (約 420 台/日)	合計	約 90 台/日 (約 190 台/日)	約 390 台/日 (約 960 台/日)	約 480 台/日 (約 1,150 台/日)
	ごみ収集車両	直接搬入車両等	計															
知多市清掃センター	約 50 台/日 (約 100 台/日)	約 230 台/日 (約 630 台/日)	約 280 台/日 (約 730 台/日)															
東海市清掃センター	約 40 台/日 (約 90 台/日)	約 160 台/日 (約 330 台/日)	約 200 台/日 (約 420 台/日)															
合計	約 90 台/日 (約 190 台/日)	約 390 台/日 (約 960 台/日)	約 480 台/日 (約 1,150 台/日)															
2	<p>現状の知多市清掃センター敷地付近の廃棄物運搬車両の滞留状況について示されたい。</p> <p>また、新施設稼働後の滞留対策について示されたい。</p>	<p>現状の知多市清掃センターについて、年末年始等には一時的に廃棄物運搬車両が混雑し、敷地外へ並ぶことがあります。平常時においては、廃棄物運搬車両が滞留し、敷地外へ車両が溢れることはありません。</p> <p>なお、現施設では、計量棟から入口までは約 150 m 離れており、車両が約 20 台並べるスペースがありますが、平常時には最大でも午前午後の受入開始時間前に 5 ～ 10 台並ぶ程度です。</p> 																

		<p>新施設における廃棄物運搬車両の滞留対策については、現在策定中の「ごみ処理施設整備基本計画」の施設配置計画、動線計画の中で検討しており、準備書で明らかにする予定です。</p>
3	<p>廃棄物運搬車両の将来交通量（時間帯別）の設定の考え方について示されたい。</p> <p>また、西知多産業道路以外の主要な交差点について、交通状況を踏まえた沿道環境の調査・予測・評価を行うべきと考えられるかどうか。</p>	<p>廃棄物運搬車両の将来交通量（時間帯別）は、現状の両市の廃棄物運搬車両の時間帯別実績データを踏まえ、設定します。予測は、廃棄物運搬車両の通行量が最大となる時間帯で行います。</p> <p>また、東海市内からの廃棄物運搬車両については、各インターチェンジ（横須賀 I C、加家 I C、荒尾 I C など）から西知多産業道路に集中してきます。このため、これらの車両が全て集合した地点 5 で調査・予測・評価を行うこととしております。</p> <p>なお、西知多産業道路では、通勤時間帯（概ね 7～8 時台及び 17 時～18 時台）に交通量が増加しますが、新施設への廃棄物運搬車両は概ね 9 時台～13 時台が多くなる見込みです。新施設付近及び西知多産業道路の各インターチェンジ付近の主要な交差点においても、ほぼ同様の状況であると考えられます。</p> <p>知多市内からの廃棄物運搬車両については、現状と同様であり、朝倉 I C、長浦 I C、古見駅付近、新舞子駅付近などから西知多産業道路又は市道北浜金沢線に流入します。</p>
4	<p>土壌の調査地点について、地点 1-7 を選定した理由を示されたい。</p> <p>また、調査深度の考え方について示されたい。</p>	<p>土壌の調査は、工事の実施において、掘削工事に伴い発生する発生土が周辺環境に影響を及ぼすおそれがあることから実施します。</p> <p>地点 1-7 は、新施設の建設計画箇所のうち、旧知多市清掃センター内で、現知多市清掃センターのごみ処理業務に支障を及ぼさない場所である裸地としました。</p> <p>調査深度については、今後、「ごみ処理施設整備基本計画」の策定作業において検討する新施設のごみピットの規模などを勘案の上、決定してまいります。</p> <div data-bbox="990 1147 1704 1497" data-label="Image"> <p>地点 1-7 付近</p> </div>

<p>5</p>	<p>隣接企業で実施する植物調査地点における湿地等の有無の状況について、示されたい。</p> <p>湿地があれば、昆虫についても調査が必要ではないか。</p>	<p>事業実施区域の南側に隣接する企業の緑地内には、南側に工業用水の貯水槽があり、ここからの水を引き込んだビオトープが存在します。</p> <p>事業実施区域の北側に隣接する企業の緑地内には、過去にあった池の跡が残っており、降雨により水たまりができる状況です。</p> <p>方法書では、これらの緑地で植物調査を実施することとしておりますが、植物調査の実施に伴って希少な動物が観察された場合は記録し、その後の予測・評価の参考とします。</p> 
<p>6</p>	<p>哺乳類の自動撮影調査等の実施の有無について、考え方を示されたい。</p>	<p>現知多市清掃センターの緑地において、四季に各1回、夜間を含む夕方から朝までの時間※に自動撮影カメラによる哺乳類調査を行います。</p> <p>方法書では、「トラップ法」と記載しておりますが、準備書では、この「トラップ法」に自動撮影調査を含むことがわかるような記載とします。</p> <p>※その後の部会委員の指摘により、24時間行います。</p>

7	<p>方法書 p69 の事業実施区域におけるボーリング調査結果について、自然地盤、埋立地盤、造成用盛土の境界を示されたい。</p> <p>なお、凡例の記述を適切なものとなるよう見直されたい。</p>	<p>事業実施区域付近は、昭和 30 年代後半から 40 年代後半にかけて、名古屋港の浚渫土による埋立てが行われました。</p> <p>方法書 68、69 ページで示したボーリング調査結果の原典は旧知多市清掃センター建設前（昭和 55 年度）の地質調査報告書です。この報告書では、浚渫土と元の地層との境界は明らかにされていません。方法書には掲載していませんが、現知多市清掃センター建設前（平成 10 年度）の地質調査報告書では、盛土及び浚渫土の全層厚は 10m 程度と推定されています。</p> <p>凡例の記述については、引用したボーリング調査結果の凡例等を転記しております。</p> <p>準備書において、今後の調査結果を整理する際には、適切な表現となるよう留意します。</p>
8	<p>旧施設のごみピットの深さについて示されたい。</p>	<p>旧知多市清掃センターのピットの深さは、当時の竣工図から現在の地表面から 5 m 程度と考えられます。</p>
9	<p>地質等も踏まえた地下水調査の考え方について示されたい。</p>	<p>掘削工事が地下水の周辺環境に影響を及ぼすおそれがあることから、地下水調査を実施します。</p> <p>事業実施区域は、地下 10m 程度までは埋立土であると推定されておりますが、地層の構造や地下水の状況が不明確であることから、ボーリング調査を行った上で、観測井戸を設置し、地質、地下水の存在、水質及び流向等を調査する予定です。</p> <p>なお、ボーリングの結果によっては、別の位置や深度での観測井戸の設置も検討します。</p>